

東西線建設事業概要

1. 東西線建設の必要性・経緯

仙台市は106万市民を擁し、仙台都市圏のみならず東北地方における経済・行政・学術研究の中核都市として発展しているが、一方で、住宅開発等による市街地の外延化の拡大や、就業地の分散化・多核化などの進行により、郊外部と都心部を結ぶ交通需要が増加し、昭和62年には地下鉄南北線を整備するなど、鉄道利用圏域の拡大を図ってきた。

しかし、依然として市の南西部や南東部を中心に鉄道利用の空白域が残り、自動車に依存せざるをえない地域の居住者等が増加していることから、東西方向に地下鉄を整備し南北線と一体となって本市の骨格交通軸を形成することで、自動車利用からの転換の促進や、市域内の均衡な発展を目指すための重要プロジェクトとして、平成27年度の開業を目標に事業を推進している。

2. 東西線の特性

東西線の路線は、市南西部の八木山動物公園から青葉山や広瀬川を經由し、都心部を経て、流通業務が集積する東部地区に至る約13.9kmである。

導入するリニアモーター式地下鉄は、トンネル断面積が南北線の2/3程度と小さく、建設費の低減が可能であることに加え、曲線半径を小さくでき、登坂能力にも優れており、東西線の路線特性に適合した運行システムである。

3. 東西線建設工事の推移

鉄道事業法に基づく事業許可などの法的な手続きや、埋蔵物文化財調査、支障物移設工事等を経て、平成18年度以降、駅やトンネル等地下鉄本体の土木工事に順次着手し、平成21年度までに全ての区間で工事を進めている。

平成23年3月11日の東日本大震災直後より、本体構造物の亀裂調査や地盤変動に伴う測量調査のため、全ての工区で工事を中断していたが、大きな被害もなく、安全・適切に工事を進められることが確認できたことから、同年9月までに、準備の整った工区から順次工事を再開した。

現在は、トンネルの掘削や構築工事、出入口工事など土木工事を全線にわたり引き続き実施しているほか、レール等軌道資材の製造及び敷設工事も進めている。

今後は、駅、変電所、車庫の建築・設備工事や、通信設備、電力線設備の工事、車両の製造に順次着手していく。さらに、運営体制の検討を進めるとともに、地下鉄運転士の養成に取り組むなど、平成27年度の開業に向けて、事業を着実に進めていく。



新寺工区の工事状況

東西線計画概要

建設区間	動物公園駅～荒井駅
営業キロ	約13.9km
駅数	13（地下駅）
軌間	1,435mm
電気方式	直流1,500V（架空単線式）
車両基地	約6.2ha
変電所	3か所（青葉山・新寺・卸町）
車両	リニアモーター駆動車両
予測利用者数	8万人／日（開業時）